

日々の学習に 新聞を取り入れる工夫

1月月例報告会

立川市立西砂小学校

清水 章代

2026. 1. 15

TABLE OF CONTENTS

- 01 自己紹介
- 02 本校について
- 03 新聞の掲示
- 04 自主学習に取り入れる
- 05 日直のスピーチ
- 06 学年全体で意見表明
- 07 授業で自分ごとに
- 08 はがき新聞の活用
- 09 新聞を見比べる
- 10 自分で記事を選んで読む
- 11 成果と課題

01

自己紹介

自分が「楽しい」と感じることを

01

新聞はとるもの

- ・実家では全国紙、祖父母宅では地方紙
- ・新聞はとるものだと思っていた

02

校長先生から

- ・5年担任で、新聞が学年のために購入されていることを知る
- ・校長先生が、新聞記事のコピーを机上においてくれる

03

「楽しい」の押し付け

- ・仕事は楽しく、これに尽きる
- ・自分がワクワクすることを子供にさせる
- ・自分が楽しいと思うことを、同僚にも！
- ・学年の仲はどこよりもよい
- ・バカバカしいことも全力でやれば楽しい

02

本校について

1

740人を超える大規模校

担当する6年生は5クラス。横並びで5クラスあると、1組と5組は相当離れてしまう。みんなが見られるように廊下に掲示したくても、どこなら1日1回はみんなの目にとまるのか…難しい。

2

「学びのしかけ」で、面白い・楽しい授業を

児童にとっての「おもしろい・楽しい」を常に考え、「学校って、おもしろい・楽しい」と児童一人ひとりが実感できる教育活動

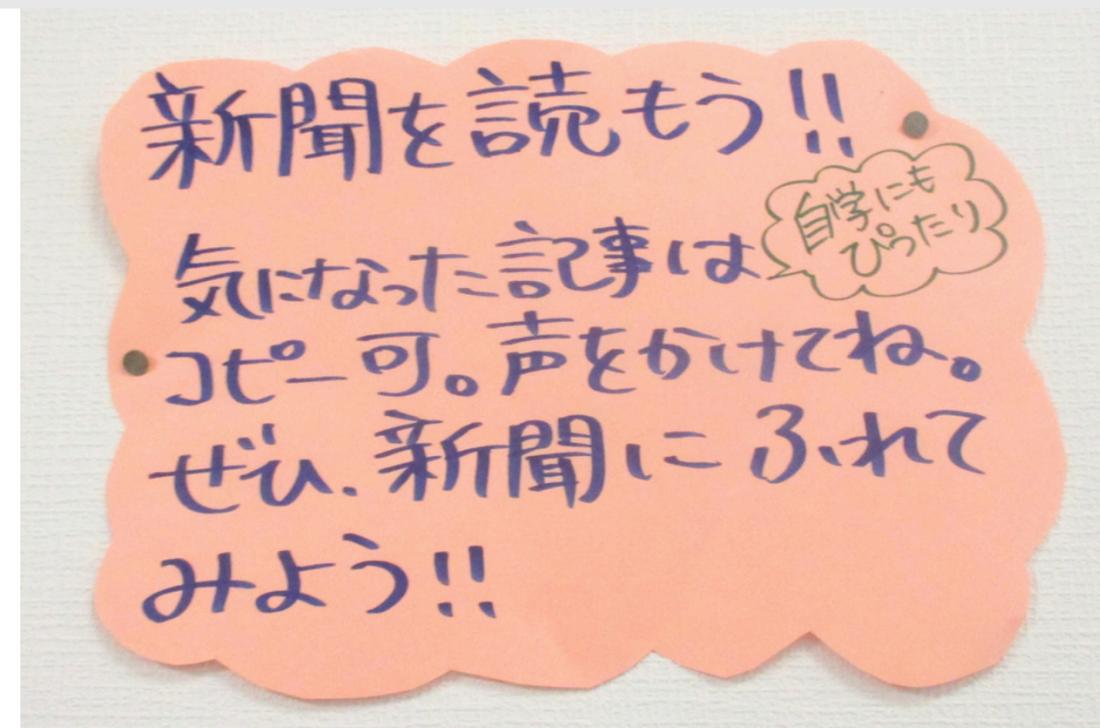
3

児童の学力は…

畑に囲まれ、のびのび過ごす子供たち。読む力、書く力、基礎的な学力はまだまだ伸びしろだらけ。

03

新聞の掲示



- 子供たちが興味をもちそうな記事を選ぶ
- 授業に関するもの
- 地域に関するもの
- 時事的なもの
- 模造紙とクリップで作成→のりを使わず掲示できる

03

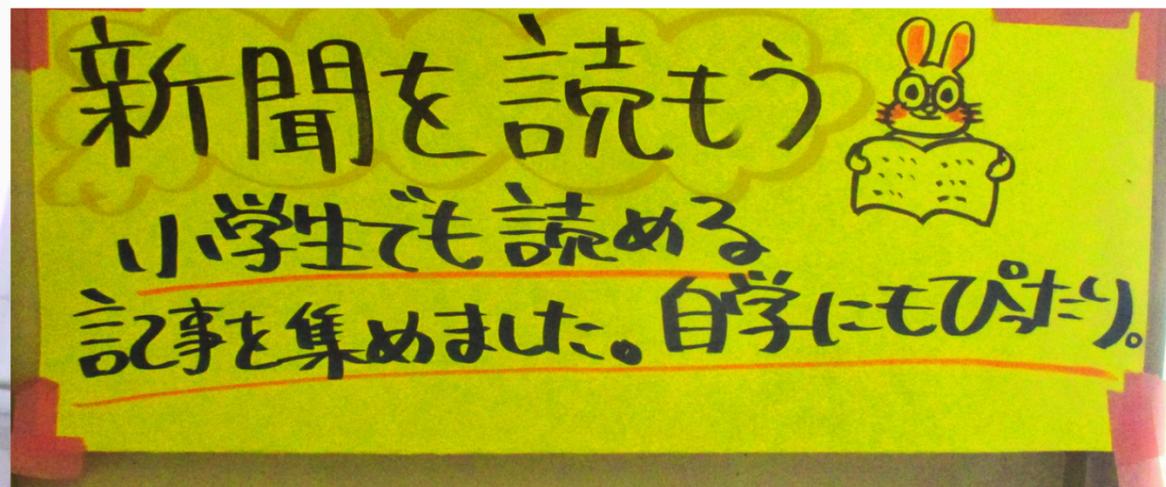
新聞の掲示



- みんなが通る場所、目にとまる場所を検討する
- なかなか見られない「号外」をここぞとばかりに掲示
- 各社の1面を毎日並べるのもいいかもしれないと思いながらできていないが、クラスで新聞当番なるものを作って、毎日掲示する仕事を任せると、新聞の整理整頓もできてよいかも

04

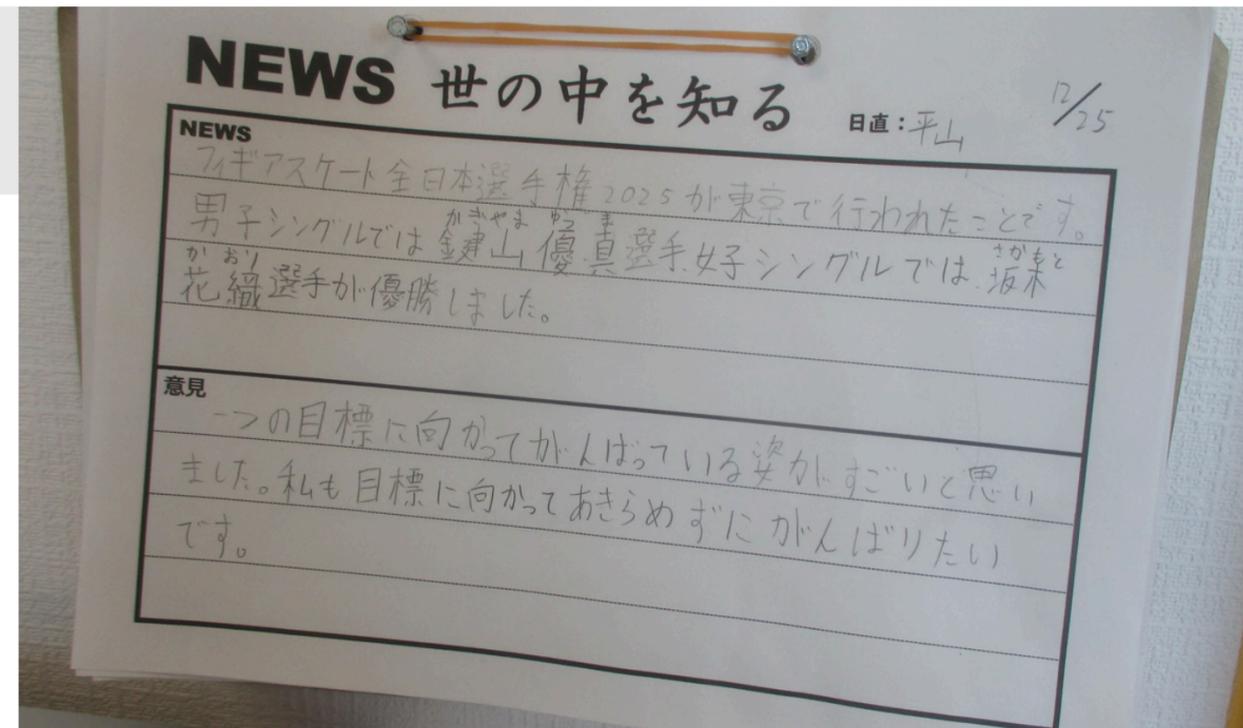
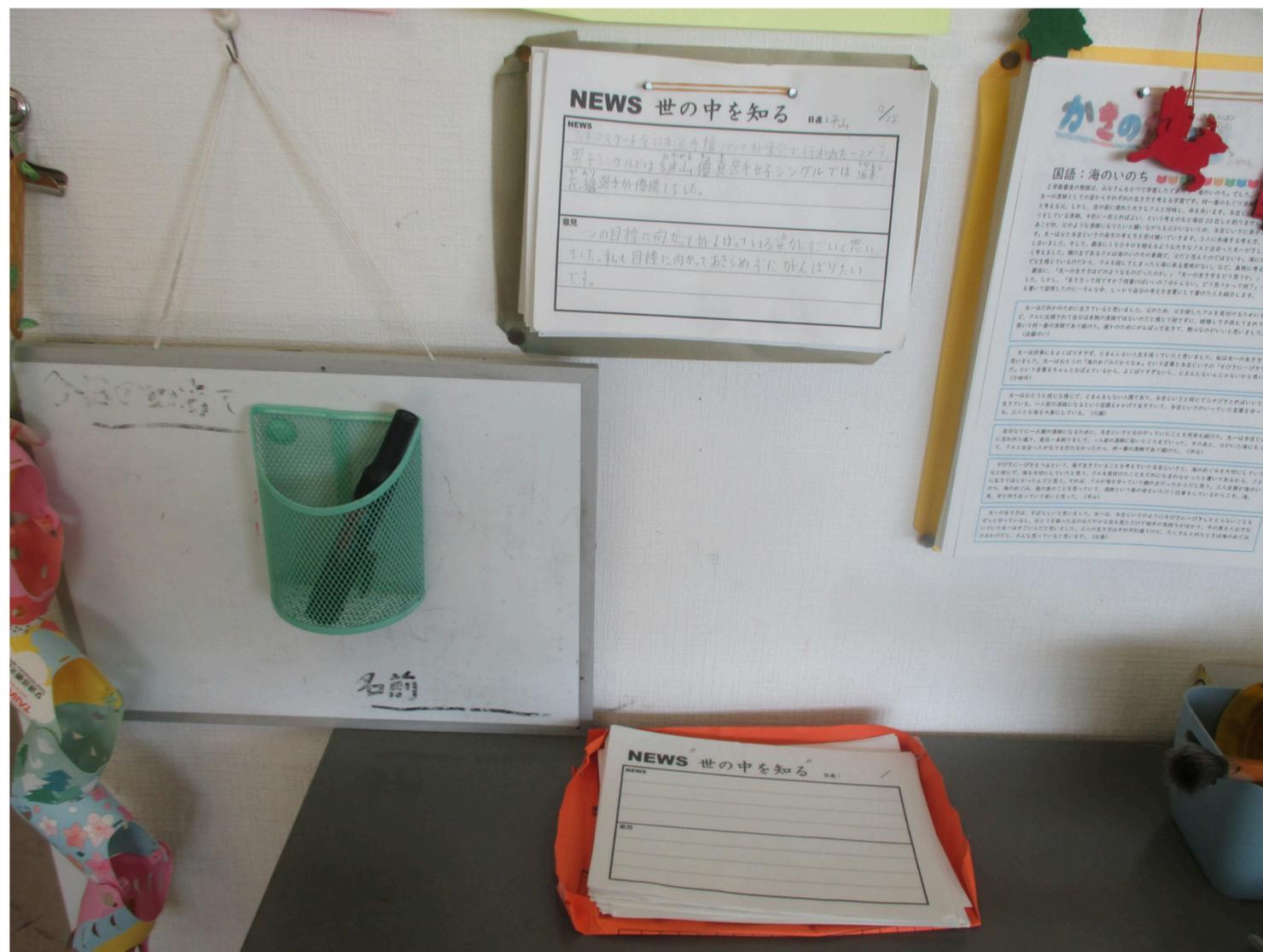
自主学習に取り入れる



- 読売新聞のワークシートを印刷して廊下に並べる
- 1枚はクリアファイルに入れて掲示することで、自然と目に入るようにする
- 自由にもっていき、ワークシートの課題に答えたり、プラスαで語句を調べたり感想を書いたりして、自学ノートに貼る

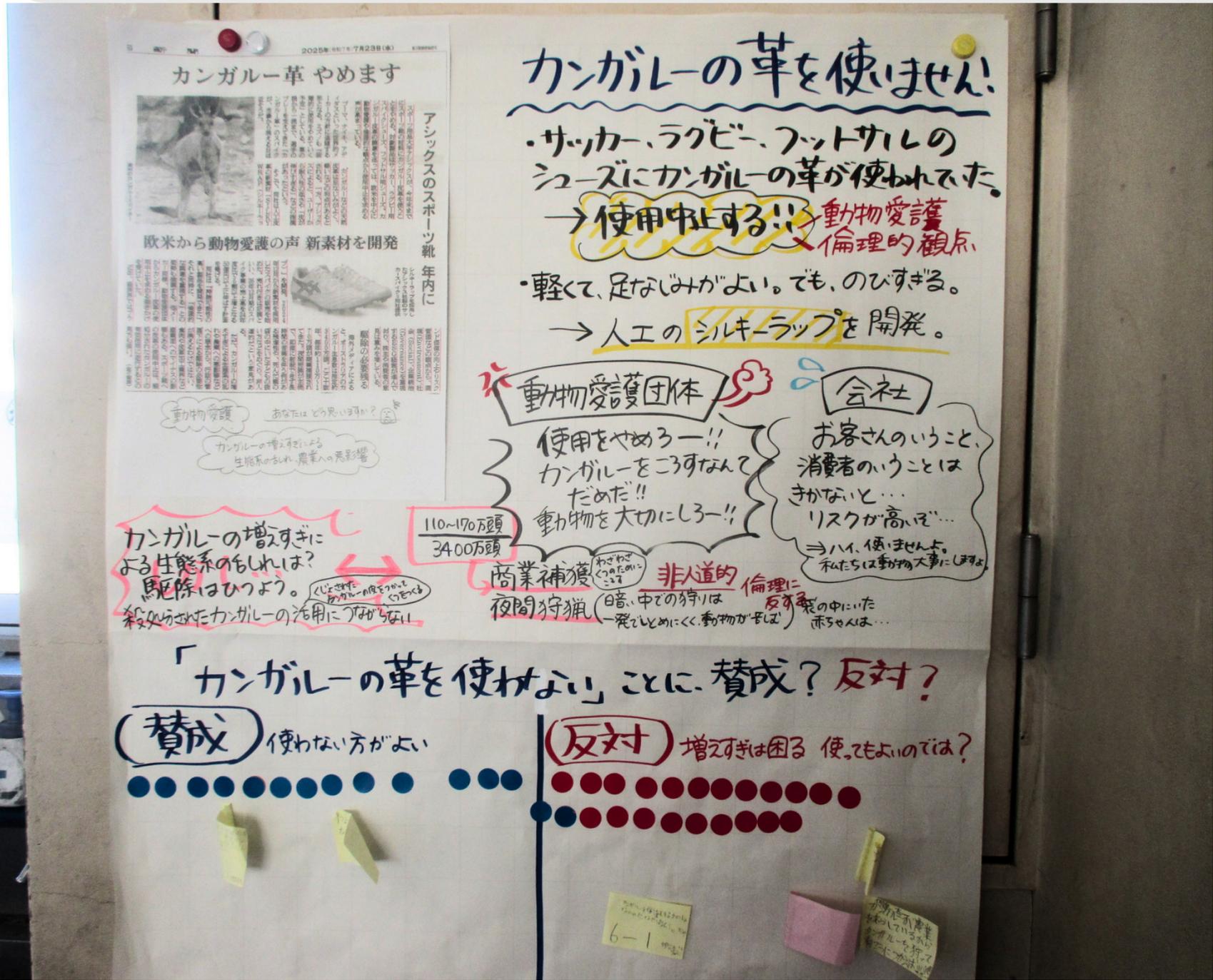
05

日直のスピーチ



- 教室内に用紙を用意しておく
- 日直は帰りの会でスピーチ
- 内容は、ニュースから選ぶ（これは必ずしも新聞からでなくてもよいことにしている）
- スピーチ後、かべに保管していく
- 保護者会や個人面談の際、保護者にも見てもらえる
- 学年末に返却

学年全体で意見表明

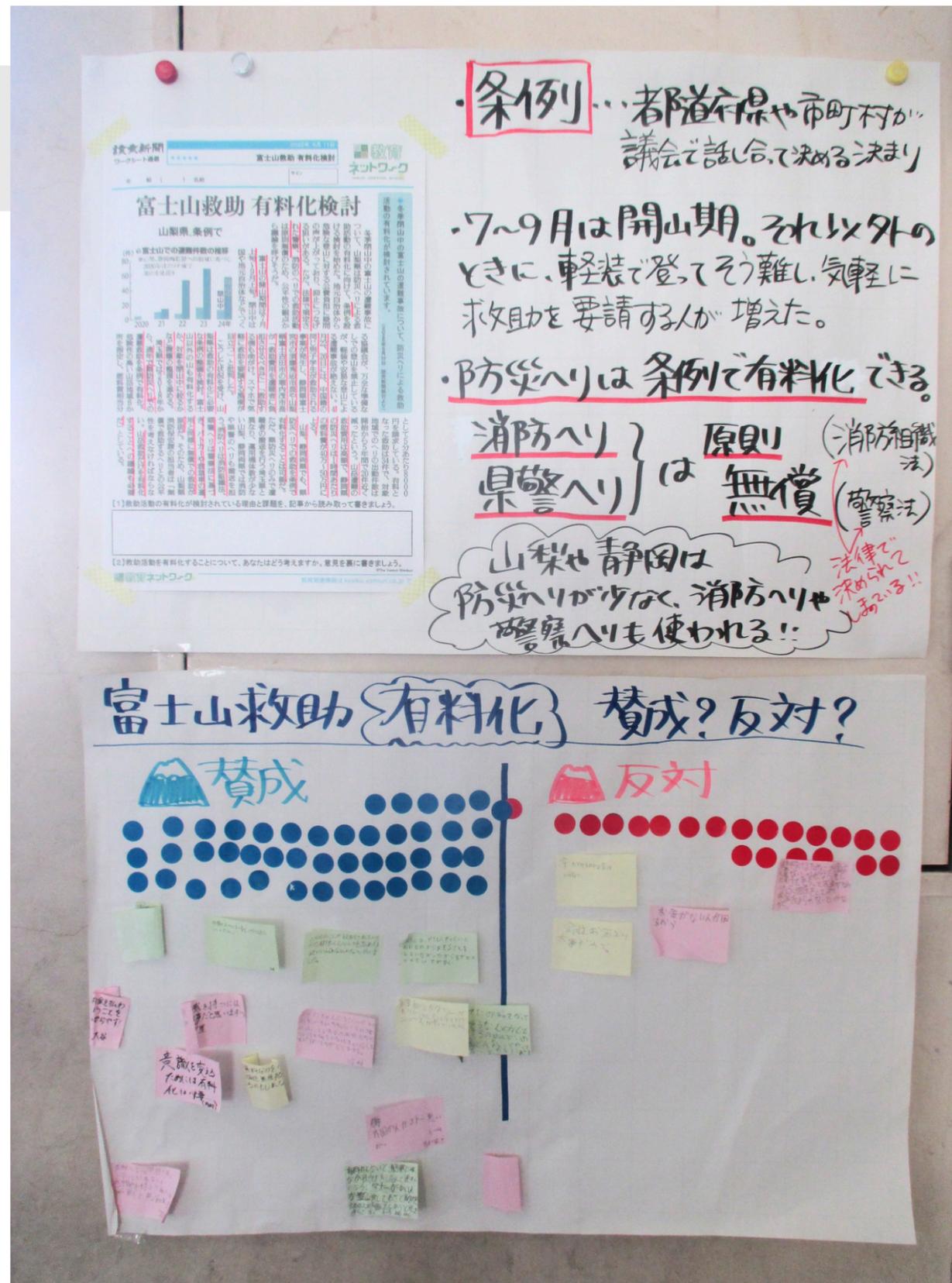


- 賛成か反対かの討論ができるような話題の記事を選び、子供たちに配布 (答えはない)
- 要点がずれないように、賛成と反対で色分けしてラインを引いたものを配布 (読解力に不安があるため)
- 通りすがりの他学年児童、教員も飛び入り参加可能
- 記事の内容をまとめたものも書いておく (新聞記事右側)
- 賛成と反対はシールで表明
- そう考える理由も書けるよう、付箋と鉛筆も用意しておく

06

学年全体で意見表明

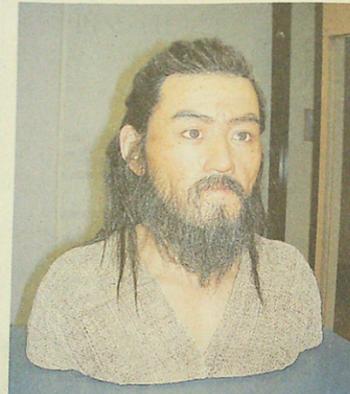
- 「富士登山での緊急搬送の有料化」「サッカーシューズへのカンガル一革の使用取りやめについて」
- 一昨年度は動物が大好きな子がいたことから、人里におりてくる熊の駆除についての記事を扱った
(今年度もやりたかったが、被害の大きさから取り扱いが難しく断念した)



授業で自分ごとに

弥生初期にはハイブリッド顔?

縄文人と渡来人



リアルに復元された新町遺跡出土の男性。縄文的だが、渡来人の面影もあるようだ＝福岡県糸島市

影の深い「ソース顔」をした縄文時代を海外からもたらした「しらゆめ顔」の渡来には、顔つきの異なる二つのグループが併存現代日本人の形質をかたちづくったとされる予想以上に早く進行していた可能性が出てきた。

1万年以上の長きにわたった縄文時代。狩猟採集をなす列島列島に、水田稲作や金属器技術を携えた人々が朝鮮半島から海を越えてやって来た。近年は紀元前10世紀までさかのぼるとの説もある弥生時代の幕開けだ。

両者の容姿は著しく違った。背が低くて濃い顔立ちの在来系に對して、渡来系は高身長でのっぺりとした顔立ちが特徴的だった。しかし謎が多い。渡来の規模や両グループが対立的だったか融和だったか、などで議論が続く。弥生初期と呼ばれる最初期の実像はつきりしない。肝心の人骨資料数えるほどしかないからだ。

なかでも研究者らを悩ませてきたのが、人類学的な骨の特徴と考古学的な固有文化との食い違いだ。弥生時代の始まり間もない福岡や佐賀県などには、埋葬主体の上大きな石を据えた「支石墓」が点する。朝鮮半島固有の墓制で、渡人ともどもたらされた。だから

石田三成 頭蓋骨の石膏レプリカから復顔

こんな顔?



戦国時代の武将、石田三成（1596～1600）のものと伝わる頭蓋骨の石膏レプリカから、生前の顔が再現された。シャープな輪郭にすっきりした目元、薄めの唇が印象的だ。佐賀大学医学部の川久保智助教授（解剖学・人類学）らが日本解剖学会全国学術集会で発表した。

「関ヶ原の戦い」で西軍を率いた石田三成は、徳川家康に敗れて斬首された。三成の可能性があるという。川久保さんらは、京大博物館に保管されている石膏レプリカをもとに、人類学的考察や当時の計測値などを考慮して、3Dプリンターで頭蓋骨を複製。その骨格に、ロシア人や米国人を中心に研究が

積み重ねられた方法と佐賀大で研究してきた新手法を組み合わせた粘土で肉付けした。これまで三成の顔は子孫の杉山家に伝わる像画が知られ、桃山時代末期の原本を江戸時代に模写したものとして、今回復顔は、本の遺骨のレプリカを土に最新の研究成果を反映させ、生前の姿に近づけた。

近年はDNAゲノム解析を使った復顔が盛んだが、骨格から実際の姿を迫る研究は100年以内の骨種がある。川久保さんは「骨から読み取れる形態学的な情報をできるだけ使って復顔したい」と意欲がある（松本直加）

副葬品の銅鏡 中国から渡来 奈良・富雄丸山古墳

築造400～100年前に製造 あすから初公開



奈良市の国内最大の円墳、富雄丸山古墳（4世紀後半、直径109m）の木棺から2023年度の発掘調査で見つかった「三角縁神獸鏡」などの銅鏡3枚を調べたところ、いずれも古墳築造の約400～100年前に作られた上質の中国鏡と判明した。

銅製品の流れを把握していたヤマト王権からもたらされたと考えられるが、長期間にどのような流通経路をたどって渡来し、保管され、被葬者の棺に納められたのかは不明。30日発表した奈良県立橿原考古学研究所と奈良市教育委員会は「王権は有力者の実力や王権との距離に応じて大小の銅鏡を配り分けており、富雄丸山古墳の被葬者との関係の強さをほうふつとさせる」と評している。

3枚のうち三角縁神獸鏡は3世紀中ごろ、魏で作られた「陳氏作六神三獸鏡」というタイプで、直径21.6cm。このタイプは大王墓との指摘がある桜井茶臼山古墳（奈良県桜井市、3世紀末）などから、同じ鏡型で作られた「兄弟鏡（同范鏡）」が見つかっている。他の2枚は、紀元前1世紀末～後1世紀初めに前漢で作られ、ウズベキスタンやロシアでも出土例がある「虺龍文鏡」（直径19.1cm）▽2世紀末～3世紀前半、後漢で作られたとみられる「画像鏡」（直径19.6cm）。

桜井茶臼山古墳は全長204mの前方後円墳。三角縁神獸鏡26枚を含む国内最多の103枚の銅鏡が出土し、絶大な権威がうかがえる。富雄丸山古墳に、桜井茶臼山古墳の三角縁神獸鏡の「兄弟鏡」が副葬されていたことは、両者に何らかの関係性があったことを物語る。

3銅鏡は8月1～17日、奈良県橿原市の県立橿原考古学研究所附属博物館（0744・24・1185）で初公開される。

【皆木成実】

- 社会で古墳について学習したときには、昨年度、古墳に関して新しい発見があったため、そのことに関する記事をコピーし、資料として全員に配布した→教科書より新しい、今現在のタイムリーな情報を伝えられる
- 社会の授業をもたない担任にも、記事のコピーを配布→新聞はよい資料になること、そのためには常にアンテナを貼らなければならないことをそれとなく伝える

08

はがき新聞の活用



- 公益財団法人理想教育財団より無償提供
- ビニールポケットも無償提供
- 15分ほどで書かせることが多い
- 書く量は少ないため、抵抗も少ない
反面、短くまとめるのは難しい
- 一斉に同じ記事を読んで内容を捉え、上段に要約、下段に考えを書かせた（次の活動につなげる伏線）

セブン モノレールで配送

セブン-イレブン・ジャパンは5日、多摩都市モノレール、京王運輸と共同で、モノレールによる商品配送を始めると発表した。駅構内にあるセブン店舗への配送体制を効率化するとともに、従来のトラック配送に伴う運転手の業務負担や二酸化炭素(CO₂)排出量を削減する狙い。

対象は、多摩モノレールの多摩センター、立川南、立川北、玉川上水、上北台の5駅構内にある計6店舗で扱う、おにぎりや弁当、サンドイッチ、アイスなどの冷蔵・

冷凍商品。これまではトラックで運んでいたが、駅の近くには駐車場所が少なく、駐車場所から店舗までの距離も遠い。エレベーターが必要な店舗もあり、運転手の業務負担が大きかったという。

今後は、セブンの配送センターから多摩モノレールの高幡不動駅までトラックで商品運び、受け取った京王運輸の配送員がモノレールに乗って該当駅の店舗に納品する。通勤ラッシュなど混雑する時間帯を避け、1日4回配送する予定。トラックと比べ、鉄道は環境

トラック運転手負担・CO₂削減

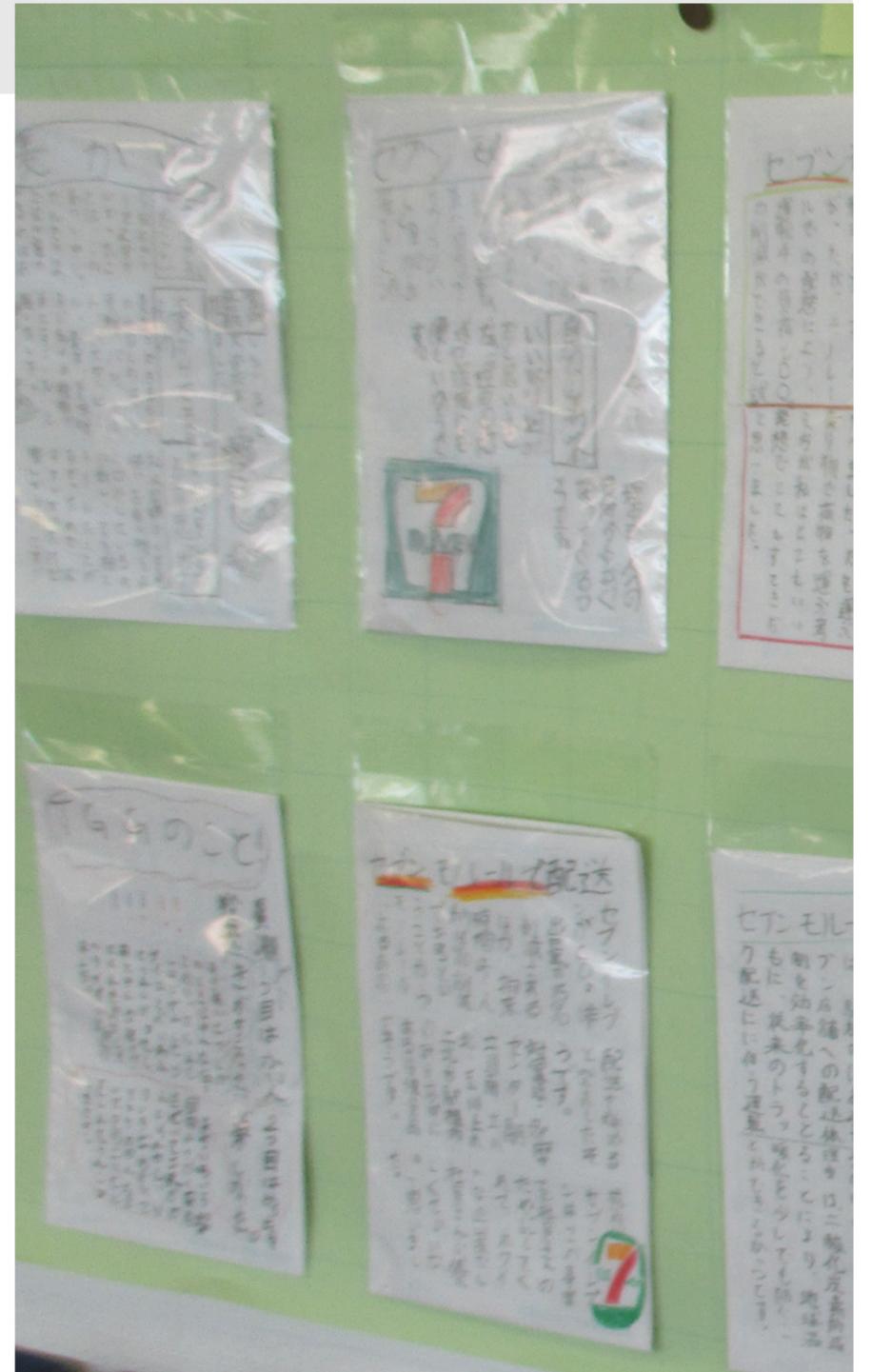


段落

モノレールから商品を降ろす京王運輸の配送員＝東京都立川市で5日

負担が低い配送手段とされる。セブンはモノレールの活用によってトラックの走行距離が減りCO₂排出量が約15%削減されるほか、運転手の拘束時間は1人当たり約18%削減できると試算している。

【鴨田玲奈、写真も】



09

新聞を見比べる

- 新聞を新聞社ごと、朝刊／夕刊、日付順に並べ替えさせた
- (年末の忙しさを理由にして) 新聞が2か月分ほどたまっていたので、整頓しようと思ったがあまりの量に私がやる気をなくしかけたところで、満を持して子供たちにさせることした
- 同じ曜日の各社の新聞をセットにしてグループごとに配り、各社の違いや特徴を見付けて話し合った
- 気付いたことは後からも見返せるよう、Figmaを利用した
- 見比べる過程で、自分が一番気になった記事を写真で撮って貼り付けてもらった



予想に反して?とても真剣に新聞を見ている

10

自分で記事を選んで読む

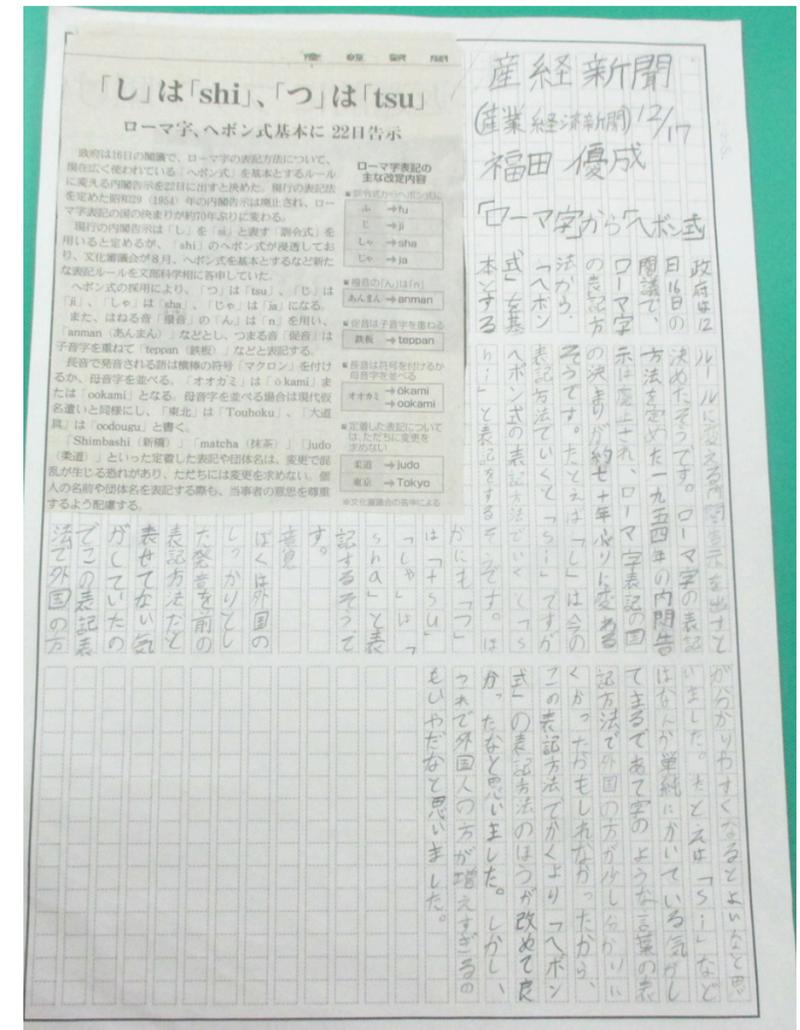
気になる記事を選んで、切り抜く
そして、B4の学習新聞用ワークシートに貼り付ける
書くことは、要約と自分の考え



10

自分で記事を選んで読む

- 思った以上に、真剣に記事を選んでいた
- 事前にはがき新聞で行ったときは、みんなが同じ記事だったため誰かに頼ることができたが、今回はそれぞれ選んだ記事が違うので、一人でやりきらなければならなかった

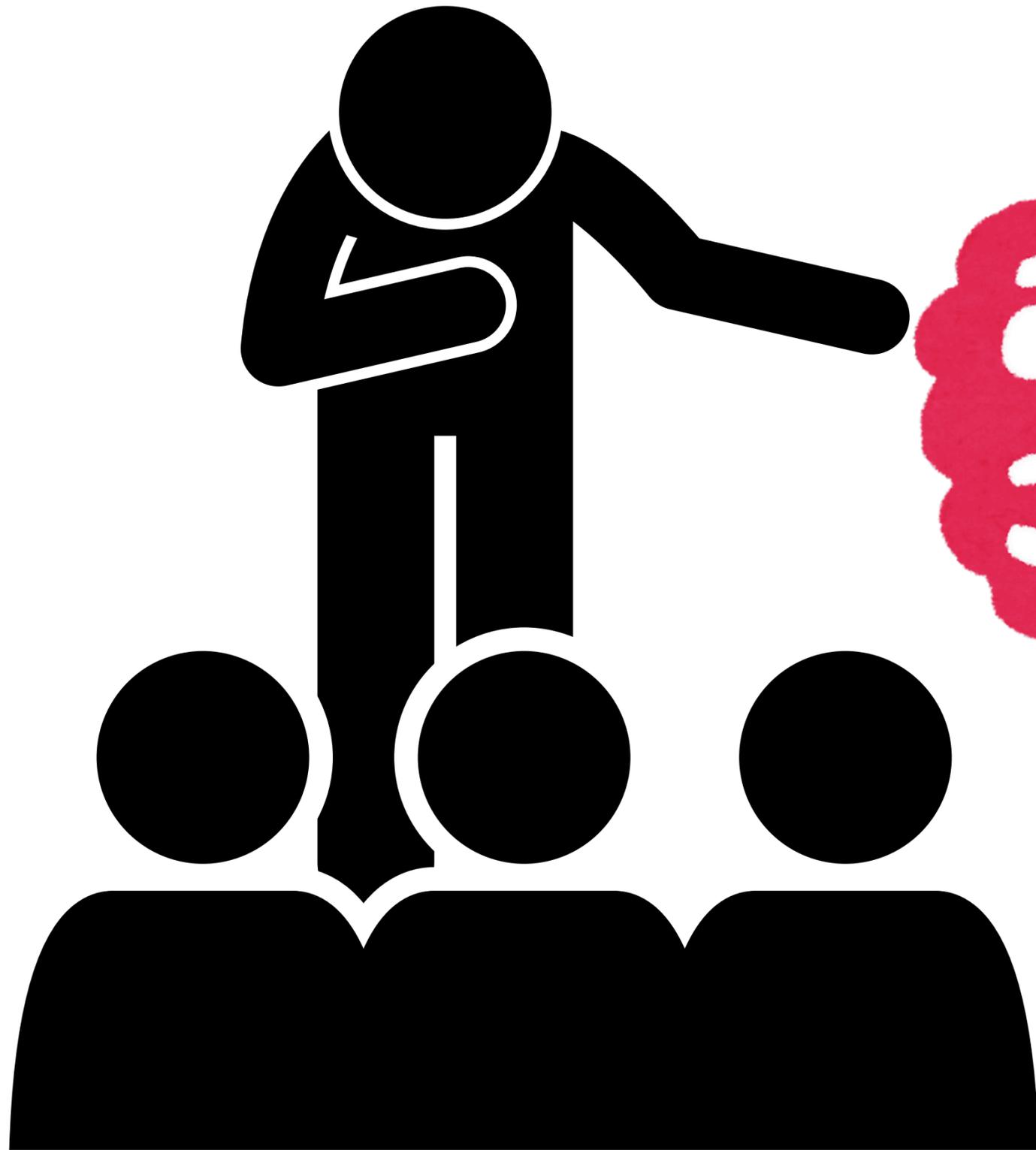


成果

- ・ 様々な情報を得る一つの手段としての新聞について身近に触れる機会をもつことができた
- ・ 社会の出来事と自分自身が決して無関係ではなくつながっているということを感じることができた
- ・ 廊下に記事を掲示することで、そこを通る他学年の児童も目を向けることが増えた
- ・ 文字だらけの新聞にも抵抗が減り、身近なものになった

課題

- ・ 毎日届く新聞を、無駄なく利用するにはまだまだ工夫が必要である
- ・ 子供向けではない記事を読み切るには、読めない漢字や言葉の意味を調べる時間が必要であり、それを教員が解説しながらやるとなると、授業以外に要する時間が増えてしまう
- ・ 児童の内容理解が難しい場合、こちらがまとめ直すことが必要となり、学校全体に広めたくても、他の先生にそれを強要することはできない



ありがとうございます
ございました